

## 3 度目のA5ブータン運用雑感

「金魚の糞」ブータン編

JA3IVU/A52IVU 北井 十生

一昨年、昨年に引き続きA5で運用ができるのはひとえに JH3AEF東條さんの友人で仙台在住のJH7EQW湯浅 涼先生という耳鼻科医のお蔭である。実に良い機会を作っていただいたことに感謝しています。今回は湯浅先生の耳鼻科チームとの予定が合わず無線科チームのみになりましたが湯浅先生のご助力によりライセンス、チケット等すべてうまく手配していただきました。ありがとうございました。

### 1 準備

さて、今回は JH3AEF東條さん、JH3LSS宮川さん、JA3IVU北井ともう一人、イースタ島へ一緒に出かけた JA3ARJ大串さんと4人になった。

ところが出かける前になって、W7Gから6mのEMEを運用してくれないかとのメールが……

うん W7G どころか聞いたことのあるようなコールだ。W7G グレンさんならK1Nナバサに行っているはずだ。コールがちょっと違った。この方6mのEMEでは世界的に有名な方であることがわかった。といっても私たちは誰もEMEは聞いたことがあるが運用などしたことがない。また、そのノウハウは持っていない。最近のEMEは一昔のCWで何十エレメントの八木と500Wや1kWでなく、K1JT作成のWSJT (JT65)で運用するので6mの場合5エレの八木で500Wほどできるらしい。HFでのJT65の運用はあるが6mのEMEはない。

W7Gから月へ仰角、方位、時間などを知らせてきた。そこでひるんではいけない。持って行けるアンテナ (Radixの5エレ八木)を調達し、組み立て練習を行い、航空手荷物として持ち込めるように軽く、軽くした。ところが無線機の手持ちは6mでは100Wしか出ない。リアの持ち合わせがないのでW7Gには100Wと5エレ八木で挑戦すると連絡をした。(もちろん許可は200Wまでしかとっていないので500Wはムリ)

4人になったので、荷物の重さも苦労しながら、なんとかタイ国際航空は20k、ドレクエアがビジネス30kに収めるようにしました。

というわけで、今回もリアアンプなしで。リグは東條さんがIC7200、宮川さんと北井がTS480HX、アンテナは14~28がHEX-5、7と10がDP、1.8と3.5が40mのLW、50が5エレ八木にしました。4月28日夕方、車でまず東條さん宅へ、大串さん宅へ、西宮の宮川さん宅へ、そして関空へ向かい予約していた駐車場へ(何日預けても5000円)。

タイ国際航空のカウンターへ 3人分(といっても大串さんは預け荷物はない)を次々乗せる。どこまでかはうまくいったが機内持ち込みの荷物を見てあらら超えている。中の荷物を出して用意されたダンボール箱へ詰めなおしてなんとかクリア、よかったよかった。

荷物はパロまでスルーで行くので多分大丈夫????

予定の4月30日0時30分すぎ、無事に関空を離陸した。しばらくすると軽めの夕食が出た。

到着、1時間ほど前の朝の4時ごろ朝食が…… まだ眠い

バンコック国際空港に到着し、乗り換え口へ、乗り継ぎ窓口で無事手続きを済ませドレクエアのラウンジへ。

6時50分、バンコック国際空港を離陸後、インドのBagdograに到着した。ところがパロの空港の気象条件が悪化しているので20分ほど機内待機するとアナウンス。しかし20分経っても動く気配がなく、ターミナル待機となり降ろされてターミナルビルへとことこ歩くと、そしてビルに入るとチケットとパスポートまで取り上げられた。これでは構内以外どこへも行けない。まあ外に行ってもなににもなさそうでした。搭乗客の中には2人と5人(JTB)の日本人ツアー客もいた。2時間ほど待っていると出発するとアナウンスがありパスポートと新しい手書きのチケットを受け取りいざ航空機へ。ところが着席するまでX線検査、道持ち物検査を5~6回受けた。わずか100mほどの距離である。着席すると上の棚の荷物は誰のものか一人ずつチェックが始まった。なんとか終わり、やっと離陸した。30分ほどでパロの山々が、山と山の間を降下し、山の尾根が窓のすぐそばに……2時間ほど遅れてパロ国際空港に無事着陸した。この空港にはレーダもなければ官制もないVFRのようです。一応、管制塔らしき建物はあった。

### 2 ブータンに到着

タラップを降りて徒歩で出口へ、きれいな独特の建物 入国審査を受け、荷物を受け取り 税関へ 無事通過した。

出迎え口には現地のいつものウゲンさんがお迎えに来ていました。

車に荷物を積み込み、宿泊地のトチュラ峠向け出発したが到着が遅れたため、昼食を首都であるティンブプで取り現地旅行社の青木さん事務所に寄りトチュラ・リゾートへ出発。峠のてっぺんには108の仏塔が建立されている。ここからの景色は絶景 遠く白いヒマラヤの山々が眺望できるはずであったがあいにく曇りで真っ白なにも見えない。

高山病に注意しながら荷物を運ぶ。

トチュラに到着したのが遅くなったため、HEXを明日にして、まず、50の八木と21のデルタループを上げ、第一声を出すことにした。今回はミニマルチを上げずにHEXとWとDPを設置することにした。

#### 運用開始

4月29日 現地時間夕方から21で運用を開始した。早速、パイルを受ける。

残念ながら天気悪くヒマラヤの山々は全く見えない。

4月30日朝、HEXを30分で上げる。前と比べればかなり早くなった。これは宮川さんが日本であらかじめ展開し、再組み立てが容易になるように仕舞い込んでいたおかげだ。いいバンドは1.2程度で21が少し悪く2程度これならなんとか使える。何も入感しなくなったらJT65をワッチし、QSOできた。

午後から10のDPと7のDPそして1.9と3.5のLWを上げる。

いよいよ50のEMEの時間4月30日09時45分(UTC) 方位93度、仰角4.8度の計算結果がW7GJから送られてきている。1時間ほどJT65で1分おきに送信開始した。しばらくすると強い信号が受信される解読されない。お月様の反射がこんなに強いはずがないのと解読できないので再度、送信を再開したがQSOにはならなかった。100Wと5エレの八木では到底無理な話だ。しかし、トチュラは海拔3150mあり、南側以外は何十kmと何も無い。

5月1日も50分遅れの10時30分(UTC)から送信したが何も入感せず、実験は終了した。

今年は昨年までのSSBやPSKとおまけのCWだけでなく、なんとCWから始まりRTTYといつものSSBがなかったことに気づき運用することにした。

5月2日、土曜日 朝9時(JST)前にお世話になっているJH7EQW湯浅先生と21でQSO出来た。9時になり、J13ZAGのロールコールをワッチしたがJA3USA島本さんしか聞こえない。アンテナをHEXからデルタループに変えるとJA3AOP杉山さんとJE3BEQ宮本さんがQSBがあるが聞こえる。



50MHz 5エレ八木

無線三昧ではなく、始めて参加した大串さんと北井がトチュラから車で2時間弱にあるブータンの古都「プナカ」へ出かけた。一昨年秋と違い、田植えの準備をしていた。

プナカ・ゾンは2回目だか紫色の「ジャカラランダ」が咲いている。2012年10月に南アのプレトリアで見て以来、まさかブータンで見られるとは思わなかった。



山手からのトチュラ・レポートのアンテナ

早朝から1.8Mで宮川さんがCQとワッチをするがノイズでまったく入感なし。また、3.5も同じ。7MではCW,PSK,JT65でQSOできた。秋と違って、曇りが多く、ヒマラヤの山々はほとんど見えなかった。4日朝から撤収開始して、昼食を済ませ。今年もまた、男性だけでなく女性たちも運んでくれた。このホテルにはエレベータのようなものはなく、すべて人の手で運ぶ。この雲海の中でヒマラヤの山々が遠望できるホテルから運用することができた。



ジャカランダの咲く「プナカ・ゾン」

1日三食ともレストランで食べるので女性たちも顔見知りになった。来年もまた来ると言ったら笑っていた。(また、変なおじさんたちグループがくるのか? 女性たちは私たちのことをカーペンターと誤っていらしい)。途中、ティンブーの観光しながら次の宿泊地のパロ空港の近くの高台にある「カンケー・リゾート」へ、早速、荷物を部屋に入れ、3泊であるので各々が簡単にあげられるアンテナするか相談し、24と21のデルタループとした。

ここでもCW,SSB,デジタルモードで順番にオンエアした。

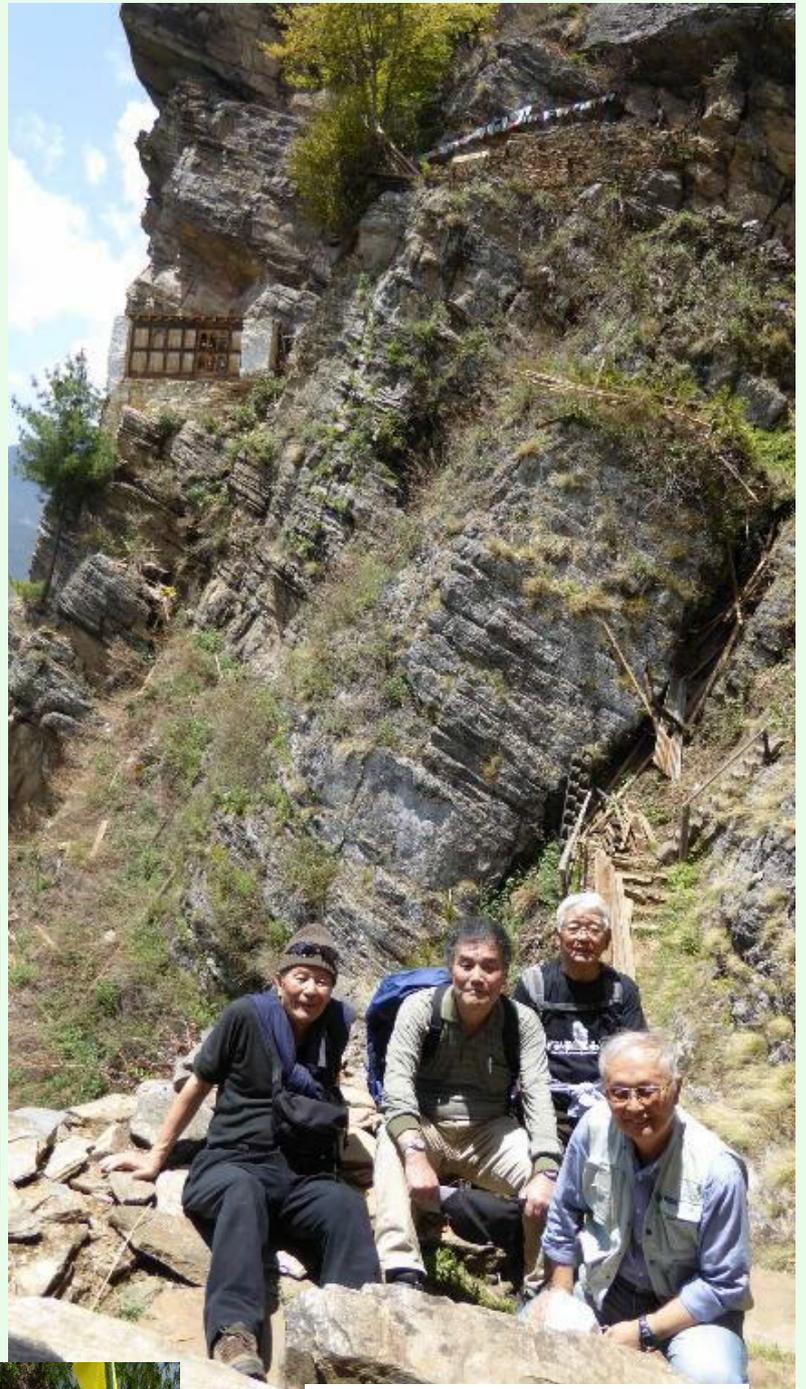
翌朝、ブータンの車でいける最高地点の峠「チュレラ峠」3988mを越えて「ハー」に行くことにした。ハーはインド国境と近く、「ハー・ゾン」はインド軍が駐留しており見学はできない。3020mの断崖絶壁にくっつくように建てられた「カツォ・ゴンパ」へ、チュレラ峠には「ダルシン」(経文旗)が多数あり風にはためいていた。遠くにはヒマラヤの山々が白く連なっている。



海拔3988mの「チュレラ峠」

今年は、ホテルの谷向かいの「パロ・ゾン」、そして、昨年出かけた「タクツァン僧院」が見えるところまで、パロにもどり 140m先の的をねらう弓」の試合会場へ。十数人の人たちが相対し、弓を射ている。どうみても的にあたっているかかは的の近くでないといけない。近くで見ていると「ビュー」した音とともに矢が飛んでくる。

今回はCW,SSB,デジタルモード(RTTY, PSK31, PSK63, JT65HF)で運用を行い7,10,14,18,21,24,28,50のバンドで約3,200QSOだった。来年もまた出かけることにしています。終わりにブータンでの貴重な運用の機会を与えていただきました「湯浅 涼」先生に紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



左上が「カツォ・ゴンパ」 3020m



パロの「カンク・リゾート」 21MHzデルタループ



国技「弓」



ブータンの国旗